

平成22年度 伊丹市2分の1成人式  
発表児童名と作文

発表順	学校名	氏名
1	伊丹小学校	佐々田 真優
2	稲野小学校	細谷 理奈
3	南 小学校	川野 祐太
4	神津小学校	東 優馬
5	緑丘小学校	末高 翔也
6	桜台小学校	瀧内 萌々
7	天神川小学校	梅迫 晃平
8	笹原小学校	岸本 理沙
9	瑞穂小学校	川淵 稜凱
10	有岡小学校	加納 麻衣
11	花里小学校	徳村 啓太
12	昆陽里小学校	長浜 貴美
13	摂陽小学校	須賀 友香
14	鈴原小学校	米岡 結姫
15	荻野小学校	大石 真由
16	池尻小学校	岸部 祐奈
17	鴻池小学校	廿日岩 侑希

わたしは、三月に十才になります。今までをふり返ってみると、楽しかったことやつらかったことなど色々なことがありました。でも、がんばってこられたのは、家族や友達、先生達がいたからです。

その中で一番ささえられたのは、家族です。わたしは四人家族です。父は、勉強のわからないところをわかりやすく教えてくれます。母は、わたしがおかしを作りたいとか工作をやりたいと言えば、何でもちょう戦させてくれます。ふたごの兄は、おもしろいです。時々、口げんかをして泣くこともありますが、だいたいはへらへら笑って、

「何の話やったっけ。」

で終わってしまうくらい、仲がいいです。

こんな楽しい家族の一員として生まれてきて、わたしは幸せだなと思います。父と母には、わたしを生んで今まで育ててくれたことに感しゃしています。ふだんはあまり言えなかったけれど、今言います。

「ありがとう。」

こんなわたしのゆめは、パティシエールになることです。なぜかと言うと、わたしはおかしやあまい物が大好きなので、自分でも作りたいなと思うからです。そのためには、まず、おかしのせん門学校に行っておくさん勉強します。そして、お店を出して、有名になって、世界でも活やくするようになりたいです。わたしの作ったおかしやケーキで、世界中の人を喜ばせたいです。今できることは、おかしの本を読んで作ってみることとケーキのデザインを考えることです。だから、休みの日には、クッキーを焼いたり、ケーキやゼリーのデザインをかいたりしています。

これからも一生けんめいがんばって、つらいことや悲しいこと、いやなことものりこえて、パティシエールになるゆめをかなえたいと思います。

わたしは、総合の時間に、生まれてからの10年をふり返る「マイ・ストーリー」の学習をしました。父や母にわたしの小さいころのことをインタビューしたり、自分で思い出したりして書いていると、いろいろなことを感じました。

最初は、「マイ・ストーリーなんてめんどくさいなあ。」と思っていました。でも、書いていると、「あれっ、わたしこんなんだったの?」とか「今も同じだあ」とか、「昔こんなのがんばっていたんだ!」など、書いていて楽しかったです。その時は、いろいろなことを考えながら、心をこめて言葉を選んでしあげていきました。

「マイ・ストーリー」を書いている時に思ったことがもう一つあります。それは、この10年を支えてくれた人たちのことです。

父と母は、わたしに勉強を教えたり、栄養のバランスを考えてごはんを作ってくれたりして大事に育ててくれました。私の知らないことを教えてくれたり、まよっている時にアドバイスをしてくれたりもしました。祖父母は、クリスマスプレゼントや、必要な物などを買ってきてくれます。

ピアノの先生は、きびしいし宿題もたくさん出すけれど、そのおかげで前回の発表会より今回の発表会の方が上手になったと自分でもわかります。

わたしには親友がいます。ようち園の時から仲良しだけど、最初は遊びで気が合うなと思うぐらいでした。でも、だんだん成長するにつれて、はげましかったりおたがいに相談できるようになってきました。今では、学校の行きと帰りの会話が一番楽しいです。

地域の方たちは立ち当番をしてくださるので、安心して登下校できます。また、地域の方はこや池などの昔の話もしてくださいます。

このように、いろいろな人の力をもらいながら、未来に向かってがんばり続けたいです。

わたしのしょう来のゆめは、学校の先生になることです。中学校・高校では一生けん命勉強して大学まで行き、学校の先生になりたいと思っています。なぜそんなふうに決めたかという、わたしは教えたり発表したりするのが大好きで、学校の先生を見て、いつも「たくさんの子どもを教えられていいなあ。」と一年生の時からずっと思っていたからです。それからもう一つゆめがあります。それは、母になることです。そして、二人の子どもを産みたいです。なぜかという、わたしの母を見て、とても忙しそうだけど子どもを育てるのは楽しそうで、やりがいがあると思ったからです。それにピアノもピアニストまではいかないけれど、今よりむずかしい曲も練習してひけるようになりたいと思っています。

わたしが想ぞうしているようにスムーズに行くとは思えないけれど、いろいろなゆめに向かってこれからもがんばっていきたいです。

十才のぼくは今、身長百二十七センチで、体重は二十七キロです。平きん身長よりも十センチ位小さいです。

ぼくは、そろばん、習字、野球、少林寺けん法を習っています。今一番好きなのは、野球です。三年生のときWBCを見て野球にむ中になりました。毎日のように学校で友達と野球をして遊んでいます。上手になりたいと思ったので三年生から野球を習い始めました。

ぼくのポジションは、セカンドです。プロ野球であこがれの選手は阪神タイガースの平野選手です。体が小さいのに足がとても速くて、守びもいいので、すごくカッコいいからです。ぼくもしょう来、平野選手のように活やくできる選手になりたいです。

今から小学校、中学校、高校、大学と大きくなると、勉強ももっとむずかしくなったり、いやな事、くやしい事、悲しい事もあると思います。

今のぼくは、すぐあきらめたり、やめてしまったりします。いつも、お母さんに同じような事を言われます。例えば、そろばんのしけん前も練習せず、けん定試験を受けて、落ちた事がありました。ぼくは、くやしい気持ちになりました。

その事をお母さんに話すと、「毎日練習もしてないのに、合かくするわけないでしょう。」と、おこられました。その時は、今度から毎日練習をやると思うけど、時間がたつとすぐに忘れてしまい続けられません。勉強でもわからない問題があると、ちゃんと考えもせず、最初からできないと思ってやめてしまいます。だから、できない事やどんなにつらい事があっても、にげだしたり、あきらめたりしない強い心を持った大人になりたいです。

二十才のぼくへ

なりたい自分になっていますか？

プロ野球選手になっていますか？

大学で野球をしていますか？

それとも他にやりたい事をみつけてやっていますか？

名前の由来通り「やさしい人」になっていますか？

どんな大人になるのか、ゆめをかなえられるかは、努力でかわるはずで  
す。ぼくの今思っている未来の自分に、少しでも近づけるように、これからは、毎日がんばっていきたいです。

将来の夢は、「野球選手」です。

4年生になって、野球を始めました。

体力づくりのために、1年生からスイミングスクールにも通っています。時には、やめたい時もありました。でも、今はやめたいと思いません。

小学校の入学式が終わった次の日に、ぼくは病気で入院をしました。小学校で勉強をしたり、友だちと遊んだりしようと思っていたのに、2ヶ月入院をしました。病院では、友だちのことや勉強のことやいろいろな事で不安でした。でも、3年生の人と友だちになりました。そして、退院の日に友だちもいっしょに退院できたので、うれしくて泣いてしまいました。

そして、学校に行く日になりました。ずっと休んでいたのも、「みんな仲よくしてくれるかな。」と、思いながら学校に行きました。

みんなは、

「おかえり。」

「退院おめでとう。」

と、声をかけてくれました。

すぐに、1年1組の仲間になることができました。

ぼくの学年は、1年生から1クラスだけです。今でも同じクラスでみんな友だちです。

3学期には、学校で2分の1成人式の会をします。二十歳になったときも、みんなそろって成人式に出たいと思っています。

そのとき、ぼくは「野球選手」として参加しているかもしれません。

いろいろなことがあった10年でした。

お母さんとお父さんがいなかったらぼくは、生まれなかったと思います。

お父さん、お母さん生んでくれてありがとう。

ぼくはお母さんとお父さんのことが大好きです。

ぼくのお母さんとお父さんは二人とも仕事をしています。だからぼくはずっと一人です。

ぼくは前まで、お母さんとお父さんが早く帰ってこないとおこって、毎日お母さんとケンカして、いつもいやな気持ちになっていました。だから今はいつも明るく「おかえり」と言えるよう、心がけています。なぜなら、お母さんもお父さんもいつもつかれているけど、お客さんにしんどそうな顔を見せずにごんばっていることに気がついたからです。

いつも起きたとき、いらいらしているぼくを学校に行かせてくれたり、店がバーゲンでいそがしいときでも野球の用意をしてくれているお母さん。

ほめるときはほめて、ぼくの野球の練習につきあってくれたり、休みの時があれば釣りやバッティングセンターで遊んでくれるお父さん。

ぼくはいつも笑顔あふれる末高家が大大大好きです。この家に生まれて本当によかったと思います。

そんなぼくにはしょう来のゆめがあります。それは、プロ野球選手になることです。

目指している選手は、イチロー選手です。イチロー選手は「努力の天才バッター」と言われていて、その努力がむくわれてメジャーリーガーになっているから、やっぱり努力は必要なんだと、ずっと心に思っています。もう一つイチロー選手のすごいと思うところは、あまりいい球を打てなかったときでも、あきらめず本気で走っているところです。

だから今ぼくは、夜にできるだけ走ったりして、きそ練習をがんばっています。ぼくの入っている野球チームは、試合では負けることの方が多く、ぼく自身の打ちつも今のところあまりよくありません。でもぼくは、野球をやめようと思ったことは一度もありません。くやしかったらその分、次がんばろうと思うからです。

ぼくは、イチロー選手のようにあきらめず、このプロ野球選手になるという夢をかなえて、お母さんとお父さんを楽にさせてあげたいなと思います。

私が生まれてから十年がたちました。生まれた時には、三才のお姉ちゃんがありました。出かける時には、お姉ちゃんが道路の方を歩いてくれて、小さい私を守ってくれました。

家のとなりに、おじいちゃん、おばあちゃんが住んでいるので、私は、一人ぼっちになったことはありません。

そして、お父さん、お母さん。いつも私のとなりにはだれかがいて守ってくれました。だから、私は笑顔を見せて、「元気だよ」と笑って、その気持ちを表せたらいいなあと思います。守ってくれた家族のみんなに感しゃの気持ちを伝えたいです。私は、この十年をふりかえり、周りの人に支えてもらい協力してもらい、一人では生きていけないということが少しわかりました。

私のしょう来の夢は、「かんごし」になることです。私は、子どもからお年よりの方まで、たくさんの人たちの病気を治してあげたいなあと思います。子どもを待っているお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族の人たちのためにも病気を治して、みんなが笑顔になってほしいです。

そして、私がだれよりも病気を治してあげたいのは、あまがさきに住んでいるおばあちゃんです。私が小さいころから、おばあちゃんは病気にかかっていたいました。おばあちゃんのお手伝いをした時、小さなかんごしさんになったようでした。だから、私は大きくなったら、かんごしになっておばあちゃんの病気を1日でも早く治して、おばあちゃんも私も笑顔でいられたらいいなあと思っています。

ぼくのことを支えてくれたのは、母、父、ばあちゃんです。

母は、ぼくを産んでくれて、ぼくにわからないことを教えてくれたり、いろいろと世話をしてくれます。

父は、ぼくのことをずっと思ってくれていて、病気になったらすごく心配してくれます。父の仕事場はすごく遠い所にあって、なかなか会うことはできません。父と遊んだことは、いつもよい思い出として心に残ります。

ばあちゃんはぼくが産まれた時からずっとかわいがってくれて、一緒に遊んでくれました。ぼくが病気になった時は、母と一緒に看病もしてくれました。母と父とばあちゃんには、いつも、いつも感謝しています。

ぼくの夢は、自然保護官になることです。なぜ自然保護官になりたいくなったのかというと、ぼくはみなさんに自然への理解を深めてもらいたいからです。自然保護官の役目は、国立公園や世界遺産が傷つけられていないかパトロールをします。観光客には、「ゴミは自分で持ち帰る」というようなマナーの指導をしたり、自然への理解を深めてもらうため、動植物の特徴について説明したりもします。動植物を、今後どのように守っていくか計画を立てます。ちなみにこの仕事に入るには、大学に入り、国家公務員試験を合格して、環境省に入り、自然保護事務所に配属で自然保護官になれます。

長い道のりですが、ぼくはこの夢を必ずかなえたいと思います。これからも、感謝の気持ちと夢を持ちつづけたいです。

今、私は、望遠鏡で星や月、わく星を見る事が大好きです。見る前は、わくわくして、うれしい気持ちになり、実物はどんなんだろうときょう味がわいてきます。私がうちゅうにきょう味を持ったのは、じゅ業で星と月の勉強をしたからです。はやぶさの新聞記事をニュースノートに自分でどんどん集めて、コメントを書いていきました。お母さんが、「9月17日から、大阪の近鉄百貨店で、はやぶさが持って帰ってきた物をてんじしていることが、新聞の記事にのっているよ」と教えてくれました。私は、それを聞いて（お母さん教えてくれてありがとう。私がきょう味を持っている物を大切にしてくれて、うれしい）と思いました。そして、すぐに、お母さんは見に行こうと約束をしてくれ、その日が、待ち遠しくてたまりませんでした。

9月19日に家族全員4人で、はやぶさのてんじ物を見に行きました。

はやぶさは、世界で初めて小わく星へのおうふくに成功した探査機です。小わく星「イトカワ」の岩石を地球に持ち帰り、その時に使われたパラシュートもてんじされていて、うちゅうをととも身近に感じました。

うちゅう飛行士の山崎直子さんは、母親の仕事をしながら、世界の人たちといっしょに研究していることも、4年生になったばかりの時、新聞の記事で知りました。私は、その姿にあこがれを持ちました。

私も、天文学者になって、ハワイ島にあるすばる望遠鏡や、うちゅうにあるハッブル望遠鏡で、新しい星を見つけたり、銀河の成り立ちを調べ、わく星の探査機をつくる仕事もやってみたいです。ゆめは、どんどんふくらみます。今年の夏、毎日、月の観察をしたように、これからも、小さな研究から始めていきたいです。

4年生になるまで、ぼくは成長してきました。1年生の時、ぼくという種から芽がでました。あまり、友達はできませんでした。友達がいなくても、大丈夫だろうと思っていました。だから、友達に声をかけるのも少なかったので、『静かなぼく』でした。2年生の時もそうでした。

でも、3年生の時、「ドッジボールに行かへん。」とクラスの子に声をかけられました。ぼくは、心の中で、「えっ、ぼくが入るの。」とちょっと思ったけれど、ドッジボールをしに行きました。すごくおもしろくて、ふれあいタイムも昼休みもドッジボールをしに行きました。ドッジをしに行って、友達っていいなあと思いました。芽からつぼみへと変わり、『にぎやかなぼく』になりました。今の4年生のクラスでも、ドッジボールをしています。とても強い子もいるけれど、おもしろいです。ドッジボールの時だけでなく、いつでも友達となかよくできるようになりました。つぼみから花がさきました。これからもこの力をぐんぐんのぼしていきます。

あと10才、つまり10年たつと、20才です。20才のぼくは必ずマンガをかいていると思います。なぜなら、ぼくの夢がマンガ家になることだからです。ワンピースをかいている尾田栄一郎さんや、ドラゴンボールをかいている鳥山明さんみたいなビッグなマンガ家になってやるぞと思っています。マンガ家になるために、今、ぼくはマンガを写す練習をしています。マンガ家になるために、苦しいことが待ち受けているでしょう。でも、のりこえたら必ず、新しい世界が見えてくると思います。これから、どんなかべにぶつかっても、「ファイト、ぼく！ガッツ、ぼく！」と自分をおうえんします。この作文を書いていると、20才が待ち遠しくなってきました。

「あと10才！がんばるぞ！」

私は、10年前の一月十七日震災の日に生まれました。毎年ニュースで悲しい事を見ますが家族みんなは誕生日を祝ってくれるからとても嬉しいです。

生まれてから、最初は箕面市に住んでいました。その時の事は、一つも覚えていませんが、たくさんの友達と遊び回っていたそうです。

二才の時、伊丹市に引っ越して来ました。幼稚園に入り友達ができ、有岡小学校に入りもっとたくさんの友達ができました。

いろいろ思い出していくと、この時にこの友達に出会えたから、今の自分がいるんだ。もし、この友達に会わなかったら、どんなふうになったんだろうと思ったりします。

いろいろな人に出会えたから、今の自分が居るのだと思います。だから感謝の気持ちを持たないといけないと思います。家族と一緒に出かけたり、遊んだり、笑ったり、楽しい事もあります。怒られたり、そんな事があった時は、

「お母さん、お父さんは、愛を込めて育ててくれているんだな」と思います。

怒られたら、嫌な気分になったりするけど、ほめられたら、嬉しくなりもっと頑張るぞという気持ちになります。きっと、お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんは、私が思いやりがあって目標に向かって頑張る人に育てて欲しいと思っています。その思いに答えて頑張っていきたいと思っています。

十年間の成長を支えてくれた人達に感謝の気持ちを伝えたいです。今度、お母さん、お父さんに感謝の気持ちを込めて妹といっしょに「ありがとうパーティー」を開こうと思っています。折り紙で作ったプレゼントを渡したり、妹と一緒にピアノの演奏をするつもりです。

その時、「支えてくれてありがとう！」という気持ちを伝えたいと思っています。

ぼくは、夏が終わって秋になる時に生まれてきました。小さい時、何でもさわってみたくて歩いている犬をさわって遊んでいました。それを見てお母さんはかみつかれないか心配していました。フェンスから落ちて骨折もしました。ちょっと目をはなしたスキにどこかに行ってしまう、すごく心配させていました。

でも、心配してくれるのはぼくのことを大切にしてくれているからでとてもうれしいです。心配すると早く死ぬと聞いたことがあります。長生きをしてほしいから親に心配をかけたくないです。宿題をやったかとか、わすれ物をしてないかなどと聞いてきます。それを聞くとうるさいなと思います。心配ばかりしてくるけど、長生きできるのかぼくも心配になります。だから、できるだけ心配をかけたくないです。

ぼくのゆめは、まだきちんと決まっていません。ぼくは、音楽が大好きです。音楽は、音で楽しませるから音楽といいます。ぼくは、金管バンド部に入って、きれいな音を出してはずんだ音楽やゆっくりな曲を演そうしています。金管バンド部では、アンサンブルコンテストというのがあります。でも、コンテストには行けませんでした。その時は、ねむれないほどがっかりしました。けれどもまだ来年があります。だから次のコンテストにはぜったいに行きたいです。そして、明るい音を出したいです。お母さんが毎日休まず働いて、そのお金でクラブもできます。来年はコンテストに出て、お母さんにも元気になる曲を聞いてほしいです。たまにはにくたらしくなるけど、ぼくを大切にしてくれています。

おばあちゃんやお母さん、お父さん達を元気にするような音楽を演奏したいです。まだ教わっていない曲をもっともっと教わりぼくの演そうで楽しく元気にしてあげたいです。

わたしが9才の時に双子の弟が生まれました。最初はねころんでいただけだったのに今では走り回るし、ひどいイタズラもするので全く目がはなせないです。例えば文ぼう具をこわされたり、本をやぶられたりしました。子守りは、じっさいやってみてすごくむずかしいなと思いました。ただ遊ぶのではなくきげんをそこなわないように遊んであげるのもむずかしい所です。でも弟ができてよかったことは、家族がもっとにぎやかになったことです。おどったり、「マンマ。」と言ったり、かわいくておもしろいのでいっしょにいると楽しいです。

そんなわたしのしょう来のゆめは、パティシエになることです。そう思うようになったきっかけは、6才の時にお父さんのたん生日にケーキを作ったことです。その時はあまり上手にはできなかったけど、みんなが「おいしい。」と言ってくれたので、とてもうれしかったことをおぼえています。（春まきなどを作った時もそうだけど）おかしを作ってみんなが笑顔になると次もがんばろうという気持ちになります。みんなに笑顔をもらえる、そんなパティシエになりたいとその時から思うようになりました。

お母さんは今、弟の世話で大変です。でもそんなお母さんを見ているとわたしも大事に育てられてきたんだなと思います。今はまだ何を作るのにもお母さんといっしょです。だけど、もう少し大きくなって1人でできるようになったら、おいしいおかしを作って「生んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。」という気持ちをお父さん、お母さんに伝えたいです。そして、大人になったらパティシエになっていろいろな物を作って、食べてもらった人に「おいしい。」と言ってもらいたいです。だから、これからも「笑顔をもらえるパティシエになりたい。」というゆめを持ち続けたいと思います。

私の夢は、ようち園の先生になることです。その理由は、私は、小さい3才から5才ぐらいの子どもたちと遊ぶことが好きだし、子どもたちの笑顔を見ることも好きだからです。

私の通っていたようち園の先生たちは、私たちが卒業するときに、「いつでも遊びにおいでね。」と言ってくれました。また、学校の帰り道に会ったときには、「友香ちゃん。」と名前をよんでくれて、いつも笑顔で、今でも私のことをよく覚えてくれてあります。

わたしは、そのことがすごくうれしいから、ようち園の先生になりたいと思うのです。

けれども、大へんそうなことや悲しそうなこともあります。大へんそうなことは、みんなの好きな『運動会』です。用意や、やることを考えたりすること。これは、とても大へんそうに私には思えます。

また、悲しそうなことは、だれかがけんかをしたり、みんなが卒業したりするときです。

またちがう子どもたちが新しく入って来るけど、3年間いっしょに遊んだり、工作をしたり、お弁当や給食を食べたりした子どもたちが、卒業したらすごく悲しいと思います。

けれども、そのことは先生たちが、分かってやっていることと私にも分かっています。どんなにかわいがった子どもたちとも、ぜったいにお別れの時が来るのを先生たちは分かっているのです。

ようち園の先生の仕事は、大へんそうだけど、私はがんばって、しょうらい、10年から15年後ぐらいにようち園の先生になりたいと思っています。

先生になるには、今から学校の勉強と、ピアノの練習をしっかりとがんばりたいです。

私のお父さんやお母さんが、すてきな会社でどちらもがんばっているように、私もお父さんやお母さんみたいに、すてきなようち園の先生になりたいです。

お母さん、生んでくれてありがとう。お父さん、働いてくれてありがとう。私は、お母さんとお父さんとお兄ちゃんの家族として生まれて、とても幸せです。

私は、お母さんとお父さんに、ヴァイオリンをすることをみとめてもらい、いい先生をさがしてもらいました。最初は、弓すら上手に持てなかった私でした。でも、今は、音を出せるようになり、むずかしくて、とてもゆう名な曲もひけるようになってきています。

もし、ヴァイオリンをやっていなかったら、今の私は、何にもむ中になっていない女の子だったと思います。だから今、とても感しゃしています。

お母さんは、料理が上手です。学校に行くときも見送ってくれ、ヴァイオリンの練習のときも、みてる、とってもやさしいお母さんです。

私は、お母さんの料理を食べるたびに、しあわせになり、元気モリモリになります。

お兄ちゃん、私を守ってくれてありがとう。私が、けがをした時も、お兄ちゃんは、

「だいじょうぶか？」

と言って心配してくれました。落ち込んでいるとなぐさめてくれて、元気を分けてくれる、やさしいお兄ちゃんです。

お父さん、朝早くから、夜遅くまで働いてくれてありがとう。お父さんが働いてくれるから、私はいろいろなことができます。遊ばなくてさみしいけれど、家族のために働いてくれるお父さんが好きです。

私のしょう来のゆめは、世界で活やくするゆう名なヴァイオリニストになって、いろいろなぶ台でヴァイオリンをひくことです。家族をしょうたいして、私のえんそうで、大好きなみんなを笑顔にしたいです。

私は、11月29日に生まれました。私には、2才上の姉がいます。お母さんは、この前、私が生まれた時のことを話してくれました。

「まゆが生まれてから、お姉ちゃんは毎日病院に来てくれて、まゆがおきているかをかくにんしてから帰っていたよ。」

と、言っていました。私は、それを聞いて、この時から、お姉ちゃんがする行動は同じだなと思って、ちょっと笑ってしまいました。

そして、お母さんは、毎年、私のたん生日の日には、たん生日カードを作ってくれます。それには、いつも写真がはってあるので、いつの時の物かが後になってもわかります。私は、この前、たん生日だったので、また、新しいカードがふえました。この前のカードで10まいです。私は、小さい時のカードを見て、10年間でこんなに大きくなったんだなと思いました。その時、お母さんが、

「もう2分の1成人式だね。まゆの将来のゆめは、何？」

と、聞いてきました。私は、

「ピアニスト！」

と、答えました。お母さんは、私がピアノをしていると、いつも来てくれて、アドバイスをしてくれます。発表会の前になると、いつも2時間ぐらいつきっきりでピアノの練習をしてくれます。そして、家族のみんなが、私のえんそうを聞いてくれます。私はそれがとてもうれしいのでまたがんばろうと思います。

そして、この前の発表会では、最ゆうしゅう賞を取りました。お母さんも、家族のみんなも、ピアノの先生も、すっごくよろこんでくれました。

私は、今までみんなに見守られてきたので、これからは、みんながよろこべるように、ピアニストのゆめがかなうように、ピアノの練習をがんばっていきたいです。

わたしは、3月3日に生まれる予定が2月2日に生まれてきてしまいました。そのためわたしは、1ヶ月間ずうっと保育器の中で入院していました。お母さんは、毎日毎日、わたしのためにミルクをもってきて、わたしにのませてくれました。家族の人は、入院している間たくさんの人に助けてもらったので、こんどは、わたしが大きくなったら、みんなを助けるやさしい人になってほしい、という思いで「祐奈」という名前をつけました。祐奈の祐は、人を助けるという意味でつけたそうです。生まれた時の体重は、1860gでふつうの人より半分の体重で生まれたそうです。

わたしは、なにも病気をせずにくすくすと育っていきました。ようち園も学校も、一度も休んだことがないのが一番すごいと、家族が言ってくれました。

わたしが今までで、一番悲しかったことは、100歳のおばあちゃんが死んでしまったことです。親せきのみんなでおいおいをした3日後、おばあちゃんもなにも病気もなく、いまにも目がひらきそうなのがたで死んでしまいました。わたしはお通夜で、かなしくて泣いてしまいました。わたしは、初めて人とわかれるのはとてもさみしくて死にたくないと思いました。だからおばあちゃんより長く生きたいなあと思いました。

今までで一番うれしかったことは、いもうとやいとこが生まれたことです。わたしは、いとこが11人います。わたしは、おねえちゃんによかったと思いました。なぜかという、いもうとの世話ができるからです。わたしは、子どものめんどうをみる事が好きだからです。わたしは、姉妹だと苦しい時もうれしい時も、みんなでわかち合えるのが一番幸せだなあと思えました。

わたしは赤ちゃんのころからずっとみんなに助けられて生きてきたから、大きくなったら、たくさんの人を助けてあげられるように、医者になりたいと思いました。わたしは、これから医者になるため、がんばろうと思っています。

私は、お父さんとお母さんが大好きです。ここまで育ててくれたことに、とても感謝しています。

私の誕生日は、西暦 2000 年 11 月 30 日です。お母さんは、大変な思いをして私を産んでくれたのです。予定日が過ぎても産まれてこなくて、1 週間遅れの出産だったそうです。いざ出産となっても、なかなか出てこれずに時間がかかったそうです。しかも、お母さんは、私を産んだあとに手術をしたそうです。「ありがとう」でいっぱいです。

私は、「侑希」という自分の名前を大切にしています。お父さんとお母さんの願いが込められているからです。人べんに有ると書く「侑」には、人を助けていく優しい子になってほしいという願いが込められています。希望の「希」には、西暦 2000 年に誕生したことにちなんで、希望に満ちた人生を送ってほしいという願いが込められているのです。

私は、大人になったら、学校の先生になりたいと思っています。4 年生のとき、算数の文章問題がなかなか解けずに困っていた私に、担任の先生がていねいに教えてくださったことがきっかけです。勉強が分からず、心の中がモヤモヤしている子どもを、「アッ、そうか！」とスッキリさせてあげることができる先生になりたいのです。

2 分の 1 成人式のことを考えるようになってから、お父さんとお母さんの子どもとして生まれてきたことを、素晴らしい奇跡だと思うようになりました。この奇跡を大事にすることが、自分を大切に自分らしく生きていくことだと思います。これから先も大変なことがいろいろあると思いますが、前を向いて、先生になるという夢に向かって、しっかり歩いていきます。お父さん、お母さん、これからも私を見守っていてください。よろしくお願ひします。